

第 91 号【2015/9/1 発行】

発行元：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言

『病気になるために大切なこと
トップ 3!』

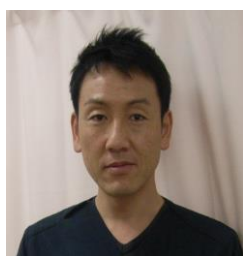
- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- 患者さんへのお知らせ
- コメディカルリレー紹介
- TOPICS



お月見にはススキが欠かせませんね！

巻頭言

『病気になるために大切なこと トップ 3!』



耳鼻咽喉科

門倉 義幸准教授

私は、これまで 1000 例以上の頭頸部がん（口やノドのがん）治療を行ってきました。残念ながら半数近い方は亡くなってしまいました。なぜ「がん」に負けてしまうのでしょうか？ 現在、死亡原因第 1 位は「がん」、第 2 位は「心臓病（血管の障害）」です。「がん」に関して、その死者は年間 34 万人となり、男性の 60%、女性の 45%が何らかの「がん」を発症します。「がん」を発症するのはなぜ？ がん家系（遺伝）だからでしょうか？ その答えは「No」です。「がん」は生活習慣病であり、遺伝によって生じる「がん」は 10% 程度で 90%は、「あなたのその生活が間違っていた！」のです。「がん」だけでなく「血管障害」に関しても危険因子（間違った生活）を知っておく必要があります。そこで、「健康的な生活を送るために取り組むべきこと、トップ 3」を説明します。

例えば、「食事に気を使う」、「運動する」はその有効性が証明されています。それぞれの取り組むべき優先順位は、「食事」は第 2 位、「運動」は第 3 位です。食事は外食を控えて、食材をしっかりと選んで自炊する。運動は、週 150 分の有酸素運動を行うことが大切です。

さて、第 1 位ですが、「タバコの煙を吸い込まない、空気的安全にこだわること」となっています。タバコ煙には、70 種類の発癌物質と大量の PM2.5 が含まれていることをご存知でしょうか？ 私達は 1 分間に 15 回呼吸するのですから、空気が安全な状態にあるのか、常に関心をもつことが重要です。汚染の指標で重要なのが PM2.5 値です。PM2.5 が高値であれば空気が汚れています。PM2.5 は大気中に漂う径 $2.5 \mu\text{m}$ 以下の微小粒子状物質で、肺の奥深くまで吸引されます。粒子表面に有害物質が吸着されているために、「PM2.5 は最悪の発癌物質」と証明されました。

環境省は PM2.5 が 1 日平均 $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下が適正で、 $70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上では健康被害が生じると警告しています。アメリカでは、 $250 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上となると、著しく死亡率が上昇すると注意喚起されています。私は PM2.5 測定器でデータを採取しています。喫煙可能な飲食店の PM2.5 は、禁煙席に座って測定しても $300 \sim 400 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、喫煙席では $700 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自動車内で 1 本喫煙した状況では $1000 \sim 1600 \mu\text{g}/\text{m}^3$ と異常高値でした。 $250 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上の場所で過ごした場合に 1 時間以内に心筋梗塞で死亡するリスクが 1.4 倍高まることも報告されています。つまり、分煙されているような飲食店の禁煙席を利用した場合でも、喫煙席から漂う PM2.5 は健康被害を容易に生じさせるレベルにあることを理解しなければなりません。PM2.5 が異常高値となる喫煙可能な飲食店、公共施設を利用しない生活を心がける必要があります。喫煙する親族や友人に、この事実を説明して禁煙治療を受けていただきましょう。喫煙しないから自分には関係ない、と安心している友人には受動喫煙（意図せず吸引する発癌物質+大量 PM2.5）による健康被害を軽く考えないようにお伝えください。受動喫煙被害で年間 6800 人が死亡するとも報告されています。受動喫煙を second hand smoking と呼びますが、近年 third hand smoke（そこにタバコ煙が無くなっても、タバコ煙に汚染された衣服やソファに残留した化学物質を吸引すること）が問題となってきています。喫煙後の空間に存在する家具等が最大 2 か月程度汚染され、これらを吸引すると DNA を損傷する可能性が報告されています。

今後神奈川県受動喫煙防止条例に則り、有害物質から国民を守る活動を継続します。喫煙率が下がり、公共施設が完全禁煙となり周囲が無煙環境となることで、神奈川県が全国一の長寿県となるでしょう。今日から、「空気的安全」にこだわって生活してください！



新規配属医師

【新規採用】

・薄井 隆宏（眼科）北里大学 平成 12 年卒

【昭和大学附属施設より異動】

・後藤 未奈子（産婦人科）昭和大学 平成23年卒

・鈴木 茉莉恵（皮膚科）昭和大学 平成 24 年卒

・谷岡 大輔（脳神経外科）昭和大学大学院 平成14年卒

・藤島 裕丈（脳神経外科）昭和大学大学院 平成19年卒

【配置転換】

・星本 剛一（救急センター⇒心臓血管カテテル室）

・岡部 俊孝（心臓血管カテテル室⇒救急センター）

異動 退職医師

【昭和大学付属施設へ】

・大川 裕子（皮膚科⇒藤が丘病院皮膚科）

・鬼頭 昌大（眼科⇒東病院眼科）

【退職】

・泉山 仁（脳神経外科）

・工藤 孝毅（消化器センター）

・八木 進也（放射線科）

診療統計

2015年6月～7月

2015 年 6 月～7 月統計データ（）内は 1 日平均

診療実日数 6 月（入院：30 日・外来：26 日）、7 月（入院：31 日・外来：26 日）

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
6 月	28,238 人(566.7 人)	17,001 人(566.7 人)	333 件(11.1 件)	760 件(34.5 件)
7 月	28,574 人(1,009.0 人)	18,149 人(585.5 人)	371 件(12.0 件)	652 件(29.6 件)

患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
予約していても、受付に35 分かかった。クリニックから紹介状を持参してきても、細かく聞かれ無駄な時間が多いように感じた。	貴重なご意見をありがとうございました。 受付待ち時間については、お待ちいただく時間や手続き等の進捗状況を事前にお伝えし、患者さんに不安を与えないように更なる改善をしていくよう努めてまいります。また、ご持参頂いた紹介状につきましては、紹介状の内容に詳細が記載されていない場合があります。診察時に再度お伺いすることがあります。診療を進めていくうえで重要な情報になりますので、ご理解、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

市民公開講座のお知らせ

10月4日（日）、24日（土）に市民公開講座を開催いたします。

様々な医療について皆様に分かりやすいようお伝え致しますので、奮ってご参加ください。

■テーマ・講演者 大腸がんでは死なせない

消化器センター 工藤 進英 センター長

■日 程：10月4日（日）13：00～14：30

■場 所：都筑公会堂（都筑区総合庁舎内）

■予 約：事前申し込み制（締切 10月1日）

予約方法・FAX：045-949-7117

メール：hokubu@ofc.showa-u.ac.jp

窓口：北部病院中央棟 1F

電話：045-949-7900



昭和大学横浜市北部病院
市民公開講座
『大腸がんでは死なせない』
昭和大学横浜市北部病院消化器センター長
工藤 進英 教授
（上海復旦大学終身名誉教授、NHK「プロフェッショナル・仕事の流儀」出演）
世界トップレベルにある工藤医師が、大腸がんの予防、早期発見、治療などをわかりやすく解説します。

記
日時：平成27年10月4日（日）13：00～14：30
会場：都筑公会堂（都筑区総合庁舎内）
都筑区茅ヶ崎中央32-1

参加費：無料
申込期間：平成27年8月3日（月）から10月1日（木）
申し込み：講座名、住所、氏名（ふりがな）、電話番号を記入し、FAX、Eメール、または、直接窓口にご持参ください。
電話でのお申し込みも受け付けております。
◆ FAX：045-949-7117
◆ Eメール：hokubu@ofc.showa-u.ac.jp
◆ 窓口：北部病院中央棟1F 管理第一課
◆ 電話：045-949-7900

定 員：先着600人 ※お席から連絡がなければ受講できます。
主催：昭和大学横浜市北部病院 共催：都筑区役所

■テーマ・講演者

『当院の新しい放射線治療と未来について』 放射線科 馳澤 憲二 教授

『胸がドキドキする』『息切れがする』『“心臓”の検査をしましょう』

心臓血管カテーテル室 山下 賢之助 助教

■日 程：10月24日（日）

■場 所：昭和大学横浜市北部病院 西棟講堂

■予 約：申込み不要



公開講座の詳細につきましては、北部病院ホームページにてご覧ください。

なお 10月4日と24日は開催場所、内容等が異なりますので、ご注意ください。

http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/ext_lect/2015/index.html

がんサロンからのお知らせ

ミニレクチャーと交流会の2部構成で毎月第3木曜日、14時から16時に開催しています。

参加をご希望される方は、まずは**中央棟1階 患者相談窓口**にてお申込みをお願いします。

日程	テーマ	担当者
9月17日	抗がん剤の副作用	がん専門薬剤師
10月15日	抗がん剤治療中のスキンケア、口腔ケア	皮膚排泄ケア認定看護師 集中ケア認定看護師
11月19日	抗がん剤治療中の食事の工夫	管理栄養士

『希望を持つ気持ちを大事にしよう』『希望と一緒にみつけましょう』



コメディカルリレー紹介 vol. 8《臨床工学室》

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

臨床工学技士（Clinical Engineer）は「生命維持装置の操作及び保守点検を行なうことを業とする者」と定義され、人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置といった生命維持装置が代表的であります。輸液ポンプやシリンジポンプのような日常で頻回に使用される医療機器の管理を行っています。臨床工学技士の従事する場所は臨床工学室、手術室、IVR 室、血液浄化室、集中治療室といったクリティカル部門であり、患者さんが安全で適切に使用できるように多職種の一員としてチーム医療に取り組んでいます。

《呼吸治療》

人工呼吸器は様々な疾患に使用され、呼吸代行や呼吸器疾患の治療などに用いられる生命維持装置です。患者さんの呼吸状態や全身状態を把握し、患者呼吸状態に対して適切な設定となるような提案も行っています。病棟ラウンドでは、人工呼吸器の点検を含め、指示通りに患者の呼吸状態と適切に稼働しているかの運行点検を実施し、酸素療法から人工呼吸関連全般におけるサポートを行っています。



《ペースメーカ領域》

ペースメーカの挿入されている患者さんは年々増加傾向にあり、日常生活を安心して営むための医療機器であります。ペースメーカは放射線領域のMRI や CT での曝露弊害があるため運用整備が必要で、手術室で使用する電気メスの影響を考慮したデバイスチェックも欠かせません。IVR 室でのペースメーカ挿入手術の対応から、病棟や定期受診外来患者のペースメーカ動作確認を含めたデバイスチェックを行うことにより、患者の入院生活における診療をサポートし、日々の生活を安心して送って頂くため、多くの診療現場に伺っています。技術習得だけではなく、業務整備も行っていく必要があると考えています。

《人工心肺・手術領域》

当院は小児の先天性疾患における心臓血管手術が行われる数少ない施設の1つであり、新生児の人工心肺が対応可能です。人工心肺計画書の作成を行い術前カンファレンスの参加により、安全で最良な人工心肺装置の運用が出来るよう努力し、手術中は医師や看護師とのコミュニケーションが大切でありプロフェッショナル集団の一員として切磋琢磨しています。体外循環認定士を取得した臨床工学技士が中心となり、後輩の育成にも取り組んでいます。

《集中治療室領域》

補助循環装置、保育器、除細動器、各種監視装置、血液ガス分析装置などの医療機器の管理から患者さんへ最適な生命代行が出来るような設定操作を行っており、あらゆる分野での幅広い知識と専門性の高い技術が必要となっています。全ての機器管理業務が必要とされ、夜間緊急体制としてオンコール体制を取っています。



《血液浄化》

透析治療は1ヵ月800症例行われ、臨床工学技士は透析装置の管理のほか水処理装置や患者さんの管理も行っています。透析治療では患者さん1人に120ℓもの処理水（RO水）が必要で、RO水は透析液と混合されることで血液浄化療法が可能になります。このような水処理装置の準備や管理を行うことで安全な透析医療の基本となり患者支援も可能となります。長期にわたる慢性維持透析患者さんへ良質な透析医療を提供するために、医師や看護師とのチームワークも必要であり日頃から教育・研究をはじめ事故のない透析医療を提供しています。



《心・血管カテーテル》

心・血管カテーテル治療では虚血心疾患患者さんの治療や検査に、ポリグラフの操作や記録、血管内超音波（IVUS）などによる冠動脈血管内の狭窄評価や石灰化病変へのロータブレードの操作などを行い、あらゆる状態の冠動脈疾患の治療をサポートすることで、安全で事故のないカテーテル治療が実施されています。また、心臓電気生理学治療（アブレーション治療）では電極カテーテル、体表面心電図・心内電位モニタ、3D マッピング装置、体外ペーシング装置などが用いられた治療が実施されており、ペースメーカ関連の新規植込みや交換にも従事しています。

《医療機器保守点検業務》

臨床工学室では医療機器の中央管理を行っております。院内には多くの医療機器が存在し高度管理医療機器として始業・終業点検や定期点検による保守管理は重要であります。臨床工学室で管理されていない機器の修理や点検依頼も多く、病棟や手術室で対応困難な保守対応も行っています。臨床工学技士は医療機器のスペシャリストとして医療現場の土台を支え、適正に使用できるよう日々研鑽しています。

心臓血管カテーテル室の紹介

「虚血性心疾患」、「高度慢性完全閉塞病変」は心臓血管カテーテル室へ

(1) 診療科の特徴

当科の特徴としては、現在 14 人（1 名海外留学中）の医師が常勤として在籍しており、時間外、夜間、休日であっても **24 時間 365 日迅速に対応できるよう常時待機しております。**

緊急時に対応できる様に 3 室の心血管造影専用カテーテル室を有し、診断及びカテーテル治療を行っております。また、高度石灰化を伴う複雑な冠動脈病変の治療に必要な、ロータブレーターの認定施設です。糖尿病・維持透析など、冠動脈に高度石灰化を有する狭心症患者さんのカテーテル治療に積極的に取り組んでいます。

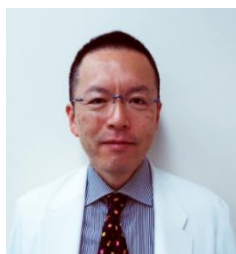
また、昨年 4 月に開始したカテーテルアブレーション治療は山下医師により 2014 年だけで 100 例の治療を行っております。また、荒木医師を筆頭として下肢閉塞性動脈硬化症をはじめ、末梢血管疾患等の治療にも力を入れています。特に閉塞性動脈硬化症は従来外科的な介入が必要でしたが、現在は低侵襲なカテーテル治療でその大部分が加療可能となっております。当科の落合医師は米国心臓病学会（ACC）など各種学会、さらに多くの海外諸国で、主として慢性完全閉塞性病変に対する PCI の手技供覧・指導を行っています。



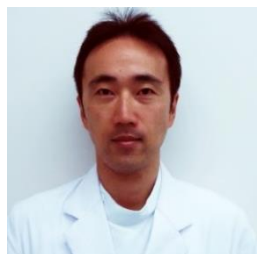
(2) 対象疾患／特徴

- 「心筋梗塞、狭心症などの虚血性心疾患」：カテーテルで積極的に治療しております。ステント治療に関しては従来型のステントか再狭窄予防のための薬剤溶出性ステントを用いる場合がありますが、治療後の内服薬に違いがあるため患者さんと相談し決定しております。また、血管の硬化が強い場合にはロータブレーターを用い血管壁を削る治療も積極的に行っています
- 「不整脈」
- 「心臓以外の動脈硬化性病変（下肢、腹部、腎動脈、頸動脈）」
- 「肺血栓塞栓症、静脈血栓症」など

(3) 診療体制



落合 正彦
（冠動脈インターベンション）
（診療科長、教授）



荒木 浩
（循環器内科一般、
虚血性心疾患）
（講師）



磯村 直栄
（冠動脈インターベンション）
（講師）



山下 賢之助
（循環内科一般、
不整脈）
（助教）

他 11 名

（内 1 名留学中）

(4) 受診について

他医療機関からの「紹介状」が必要になります。

ご不明点があれば 045-949-7143（紹介患者さん専用ダイヤル）へお電話ください。

TOPICS

職業体験・インターンシップを実施しました。

～横浜北地区インターンシップ～

横浜北地区の高校3年生を対象に毎年インターンシップを受け入れています。今回は将来医療職を目指している学生さんたちが7名参加しました。3日間を通して小児病棟や救急病棟など様々な病棟で看護体験を行いました。看護師・助産師の指導のもと、看護の現場を経験することで、将来医療現場で働きたいという思いがより一層強くなったと話していました。

これから受験勉強大変だと思いますが、この経験を活かしてぜひ頑張ってください。今回のインターンシップが皆さんの夢への後押しになりましたら、嬉しく思います。



～宮城県女川中学校の学生職業体験～



8月5日(水)に宮城県女川中学校の生徒さん6名が当院で職業体験を行いました。この職業体験は平成24年から開始し、今回で4回目となりました。この企画には医系大学に通う現役大学生がガスチューデントインストラクターとして参加して、職業体験のサポートをしています。

職業体験では病棟での看護体験や検査室での業務体験、受付事務の体験、手術室の見学等を行いました。手術室に入る際には術着に着替えたり、昼食には入院患者さんと同じ食事を摂ることで普段の生活では経験できないことをしてもらいました。

参加した学生さんからは「普段の授業では学べないことを実際に体験できて良かった。」「将来看護師さんを目指しているので、実際の現場が見られて勉強になった。」という感想を聞くことが出来ました。

神奈川県都筑警察署より感謝状を頂きました。

8月24日に都筑警察署より感謝状が贈呈されました。警察との連携災害時の医療体制など、安全で安心な街づくりに貢献していることを表彰されました。本院はこれからも地域中核病院として様々な行政と連携を取りながら運営を行い地域医療に貢献していけるよう努めて参ります。



編集後記



日中の暑さは相変わらずですが、朝晩の空気は軽く感じられるようになりました。もう少しすると蝉の声より、草陰から聞こえる秋の虫音の方が賑やかになるでしょう。季節の変わり目には、衣服に衣更えがあるように、薬にも調節が必要なものがあります。代表的な薬剤が降圧剤です。暖かい季節では、一般的に血圧は下がる傾向にあるために降圧剤の減量が可能なことがあります。一方、秋から冬にかけては、寒冷による血管の収縮や発汗量の減少、塩分摂取量（鍋物や汁物を食べる機会が増えますよね）の増加等により、血圧が上昇するために降圧剤の追加、増量が必要になる患者さんが結構多くみられます。これらの変化は、診察室での血圧測定より、自宅での血圧値によりはつきりと現れます。より適切な高血圧管理のためにも、是非自宅での血圧測定を行い、その結果を医師に見せてください。それからインフルエンザの予防接種も早めにお願ひします（当院では予防接種は行っていません。近隣の医療機関にご相談下さい）。

広報委員会 委員長 緒方 浩頭

北部病院だより 第91号

平成27年9月1日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩頭（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

T224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。